

デンプレルスレンさん一家のストーリー

ウブルハンガイ県で遊牧を営み、事業参加前は読み書きができなかったデンプレルスレンさん夫婦には、学習障害のあるブルブジャブさんを含む3人の子どもがいます。夫婦は、障害のある子どもを持つ遊牧家庭の保護者・養育者の能力強化事業に参加し、地域の生涯学習センターの教師から読み書き計算を中心に学んでいます。子どものブルブジャブさんは、地域の学校に通うことができずにいましたが、この事業を通して、両親と同じようにセンターの教師から学んでいます。今後、地域の学校への編入を目指して学習をしていきます。

父親のデンプレルスレンさん

「私たち夫婦は、以前は、村の中心部で買い物をしたり銀行や病院を利用するのに文字が読めず多くの問題を抱えていました。学習障害のある息子を病院に連れていっても、適切なサービスを受けられませんでした。計算もできないので、おつりが思ったように貰えなかったように感じても、そのまま帰るしかありませんでした。私は、（大人になってから）文字を読むことを学ぶのは遅すぎる、絶対に無理だと思っていました。学びたい気持ちは大きかったですが、田舎で遊牧を営みながら誰に頼れば良いかわからず、恥ずかしさと心配でこの夢を諦めていました。

幸い、同じような悩みを持つ人たちと一緒にこの事業に参加でき、先生が家に教えに来てくれたり、自分が村の中心部に行って授業を受けたりしています。今、私は文字を読み、署名もでき、計算もしています。私は学べないだろうと思っていましたが、子どもの頃に学べなかったことも、努力すれば大人になってから学ぶことができるし、成長できるものなんです。」



家族で学習に取り組む様子（ウブルハンガイ県、2023年1月撮影）



デンプレルスレンさん一家（ウブルハンガイ県、2023年1月撮影）

母親のバヤルツェツェグさん

「私は学校に行けなかったので、読み書きや計算ができるようになるとは思ってもみませんでした。でも、この事業に参加してからは、夫と子どもとともに夜な夜な勉強をし、教えあっています。放課後に子どもの宿題を確認し、私が知っていることを伝えられるなど、良い面が沢山あります。以前は、子どものノートも開かず、宿題をするよう促す方法もわからず、放っておいて、私は学用品を準備するぐらいしかできませんでした。今は、夜、皆で座って勉強するようになり、家族の雰囲気はずいぶん変わりました。一緒に話し、支えあい、間違いがあったら笑ったりしています。今では、夫は『私が水を汲んでくるから、あなたたちは勉強していなさい』などといいます。家事を分担するものだと理解するようになったのも進歩だと思います（笑）。私が学び、息子の治療に取り組み、子どもに読み書きを教えられるなんて信じられません。私たちは、かつて不可能だと思ったことが可能になることに希望を持っています。また村の中心部に行って、授業に参加し、クラスメートに会うのを楽しみにしています。」



村の中心部の生涯学習センターで学ぶ様子（ウブルハンガイ県、2022年11月撮影）